

王昭君

李

白

昭君 玉鞍を 払いて 馬に 上つて 紅頬 啼く

今日 漢宮の 人 明日 胡地の 妾

【作者】李白(七〇一年〜七六二年)・中国の盛唐の時代の詩人である。字は太白(たいはく)。号は青蓮居士。唐代のみならず中国詩歌史上に

おいて、同時代の杜甫とともに最高の存在とされる。奔放で変幻自在な詩風から、後世『詩仙』と称される。

【語釈】*王昭君||人名・中国歴史上の四大美人の一人。 *玉||ぎよく・翡翠(ヒスイ)又はそれに順ずる石。 *鞍||くら・馬の背に乗せ、人が

乗り易くする馬具。 *玉鞍||玉をちりばめた鞍。 *紅頬||紅のほほ・化粧した顔 *啼||なく。 *漢宮人||漢の国の宮廷の人

*胡||匈奴(きょうど)など中国の西北に住む異民族。 *胡地||胡の人が住む土地・今の新疆・蒙古等。 *妾||めかけ・2号さん・愛人。

【通釈】王昭君 玉を散りばめた鞍に補佐され、馬上にてほほに涙をながす。今日は漢の宮殿の人なれど、明朝は胡の国の妾。

【参考】◎その後の王昭君:胡の地へ行った王昭君は匈奴の単于の閼氏(あつし)、即ち皇后となったのでした。漢の後宮で埋もれてしまうより

よほどよかつたと思います。匈奴では漢に対する外交の重要な相談役となり、大切に扱われました。呼韓邪単于の死後次の単于に愛さ

れ二人の女の子を産みました。又漢から匈奴への使節を送る時は必ず王昭君の親戚の者に加え、弟が使節団長に成つた事もあつたそうです。

長安の後宮においては二度と親族に会えることはなかつたのに、匈奴に嫁ぐことで、合えるようになったとも言えます。

◎一般に中国四大美人と呼ばれるのは以下の女性たちである。*西施(せいし)(春秋時代)*王昭君(漢)*貂蟬(ちようせん)(後漢)*楊貴妃(唐)